

《担当者名》 前田秀彦 葛西聡子

【概要】

成人聴覚障害ならびに小児聴覚障害に関する基本的検査、評価法および聴覚補償法について習得する。まとめとして、PBL (Problem based learning)を通して、症例に対する合理的な聴力評価と補聴・(リ)ハビリテーションの方針策定を学修する。

【学修目標】

「一般目標」

1. 聴覚障害の診断・治療に必要な検査法、評価法について理解する。
2. 補聴器・人工内耳などの聴覚補償機器について理解し説明できる。
3. 小児聴覚障害の(リ)ハビリテーション(補聴と聴能言語指導)について概説できる。

「行動目標」

1. 純音聴力検査を実施できる。
2. 乳幼児聴力検査を実施できる。
3. 他覚的聴力検査を実施できる。
4. 聴力検査の留意点を具体的に説明できる。
5. 複数の聴覚検査法の関連性を理解し、検査所見を述べるができる。
6. 人工内耳のマッピングを通して、人工内耳の概要を理解する。
7. 補聴器の特性測定ができ、必要事項について説明できる。
8. 複数の聴覚検査法の結果をもとに評価報告書を作成し、補聴・(リ)ハビリテーションの方針策定ができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	オリエンテーション。 グループ確認、レポート課題についての説明。	前田秀彦 葛西聡子
2) 3	純音聴力検査	純音聴力検査の目的と実施手順を学ぶ。 オージオメータの設定、事前準備、上昇法による閾値の決定方法について学ぶ。	前田秀彦 葛西聡子
4) 6	純音聴力検査	気導聴力閾値を求め、オージオグラムを作成する。	前田秀彦 葛西聡子
7) 9	純音聴力検査	気導聴力閾値と骨導聴力閾値を求め、オージオグラムを作成する。	前田秀彦 葛西聡子
10	マスクングの説明	プラトー法によるマスクングの実施手順を学ぶ。	前田秀彦 葛西聡子
11) 12	純音聴力検査	マスクングを付した場合の気導聴力閾値と骨導聴力閾値を求め、オージオグラムを作成する。	前田秀彦 葛西聡子
13	語音聴力検査	語音了解閾値検査、語音弁別検査の実施手順を学ぶ。	前田秀彦 葛西聡子
14) 15	語音聴力検査	語音了解閾値検査を実施し、語音による閾値を求める。 語音弁別検査を実施し、最高語音明瞭度を求める。	前田秀彦 葛西聡子
16	SISI 自記オージオメトリー	SISI検査の実施手順を学ぶ。 自記オージオメトリーの実施手順を学ぶ。	前田秀彦 葛西聡子
17) 18	SISI 自記オージオメトリー	SISI検査を実施し、補充現象の有無を評価する。 自記オージオメトリーを実施し、Jerger typeの分類を行う。	前田秀彦 葛西聡子
19	インピーダンスオージオメトリー ティンパノメトリー	ティンパノメトリーの実施手順を学ぶ。 耳小骨筋反射検査の実施手順を学ぶ。	前田秀彦 葛西聡子

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
	耳小骨筋反射		
20) 21	インピーダンスオージオメトリー ティンパノメトリー 耳小骨筋反射	ティンパノメトリーを実施し、ティンパノ型を評価する。 耳小骨筋反射検査を実施し、同側、反対側の閾値を測定する。	前田秀彦 葛西聡子
22	乳幼児聴力検査 BOA COR	BOA、CORの実施手順を学ぶ。	前田秀彦 葛西聡子
23) 24	乳幼児聴力検査 BOA COR	BOAを実施し、評価方法の確認を行う。 CORを実施し、聴力閾値を求める。	前田秀彦 葛西聡子
25	乳幼児聴力検査	聴性行動反応検査（BOA）、条件詮索反応検査（COR）、ピープショウテスト、遊戯聴力検査の実施手順を学ぶ。	前田秀彦 葛西聡子
26) 27	乳幼児聴力検査	聴性行動反応検査（BOA）、条件詮索反応検査（COR）、ピープショウテスト、遊戯聴力検査による聴力測定を行う。	前田秀彦 葛西聡子
28	人工内耳のマッピング	人工内耳のマッピングについて学ぶ。	前田秀彦 葛西聡子
29) 30	人工内耳のマッピング	人工内耳のマッピングの実施手順について学ぶ。	前田秀彦 葛西聡子
31	補聴器周波数特性の測定 SPLメータ	補聴器測定試験装置の目的と実施手順を学ぶ。 SPLメータの目的と測定手順を学ぶ。	前田秀彦 葛西聡子
32) 33	補聴器周波数特性の測定 SPLメータ	90dB最大出力音圧レベルと規準周波数レスポンスの測定を行う。 SPLメータの設定を学ぶ。 SPLメータでの閾値測定とSPLグラムの作成を行う。	前田秀彦 葛西聡子
34	他覚的聴覚検査法 ABR ASSR DPOAE	ABRの実施手順を学ぶ。 ASSRの実施手順を学ぶ。 DPOAEの実施手順を学ぶ。	前田秀彦 葛西聡子
35) 36	他覚的聴覚検査法 ABR DPOAE	ABRを実施し、ABRの各波形潜時、各波形振幅を測定する。ABR閾値から聴力閾値を推定する。 ASSRを実施、ASSR閾値から聴力閾値を推定する。 DPOAEを計測し、pass、referを評価する。	前田秀彦 葛西聡子
37) 45	PBL (Problem based learning)	症例データをもとに評価報告書を実際に作成し、補聴・(リ)ハビリテーションの方針策定を考える。 グループごとに症例発表を行う。	前田秀彦 葛西聡子

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート提出課題80%、症例発表20%

【教科書】

中村公枝 他 編 「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版」 医学書院 2015年

日本聴覚医学会 編 「聴覚検査の実際 改訂4版」 南山堂 2017年

【参考書】

青木直史 著 「ゼロからはじめる音響学」 講談社 2014

小寺一興 著 「補聴器フィッティングの考え方」 診断と治療社 2010年

【備考】

演習内容によって使用する教室が変わります。
グループによる演習が中心です。個人的な勝手な行動は慎むこと。
各回の課題はバインダーに保存し、ポートフォリオを作成しておくこと。

【学修の準備】

- ・「成人聴覚障害学」、「小児聴覚障害学」で学習した検査方法および留意点を事前に復習しておくこと。
- ・配付される各検査法の説明資料を精読し、その検査の演習までに予習しておくこと。
- ・演習課題の内容、専門用語の意味等を理解して演習に臨むこと。
- ・2年前期で履修した「音響学」を復習すること。分からない部分は、オフィスアワーを利用し積極的に担当教員に確認すること。参考書などを利用して理解しておくこと。
- ・演習終了後、ポートフォリオを提出する。レポートは過去に配布した資料や指定した教科書、参考書を精読し考察を必ず入れること。（最低、週1回80分以上）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP4）リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

前田秀彦（臨床検査技師、言語聴覚士）
葛西聡子（言語聴覚士）

【実務経験を活かした教育内容】

机上の理論ではなく、豊富な臨床経験を基にした理解しやすい実践的講義を展開する。